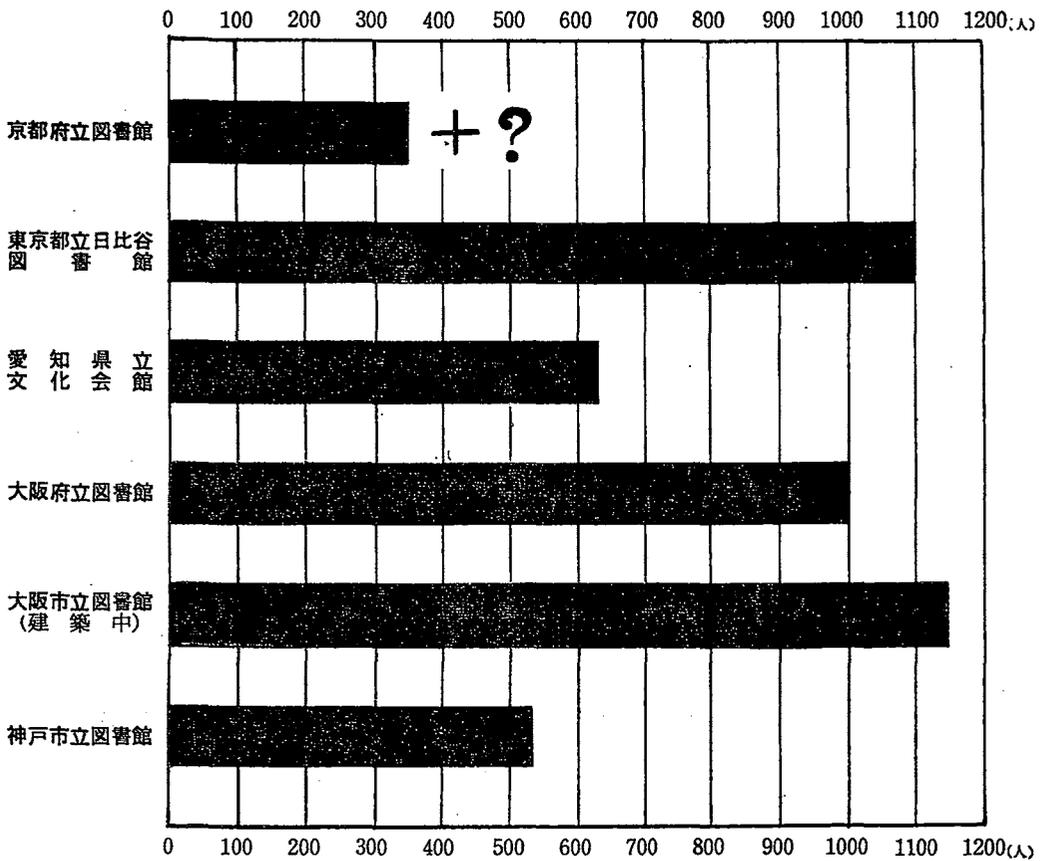


# 昭和34年度事業報告

(1959. 4. 1~1960. 3. 31)

## 日本の主要図書館の大きさ (収容人員)



## 京 都 府 立 図 書 館

京都市左京区岡崎成勝寺町 9 電・吉田(7)0069・2450

# 1 概 況

岡崎本館の利用者は、3月4月を除き、常に館外にあふれ、甚だしい時には、開館前から、終日行列が絶えないほどである。また蔵書も書庫からあふれて、そのために狭い館内を、ますます狭くしている状況である。

多年待望していた本館の新築の件は、昭和34年度につづいて、35年度の予算において、設計ならびに調査費が計上された。ひきつづき36年度、37年度に工事が実施される予定であり、新館舎において、府民に最善のサービスのできる日もほど遠くない。

## 2 館内利用者 (本館および市内3分館)

本館および市内3分館における、本年度内利用者総数は、364,103人であった。

年度別の利用者数の動きは、右のとおりである。

年 度	利用者数 (人)	1日平均 (人)
昭和10年度(戦前最高)	129,782	399
昭和31年度	330,915	1,271
昭和32年度	359,323	1,308
昭和33年度	371,464	1,333
昭和34年度	364,103	1,296

## 3 館外貸出冊数 (地方6分館および貸出文庫)

地方6分館および貸出文庫において、各種団体に対し、長期貸出(期間1か月)を行っている。本年度内の貸出冊数は、68,286冊である。

なお、これらの長期貸出図書は、1カ月の貸出期間中に、各冊平均約3人の手を経て読まれるから、この分の本年度利用者総数は、約205,000人と推定される。

## 4 京都市内4館の利用者の内訳

	本 館	伏見分館	中京分館	上京分館	合 計
利用者数(人)	237,682	60,292	25,949	40,180	364,103
利用冊数(冊)	250,543	64,870	48,571	54,106	418,090
開館日数(日)	279	283	290	283	—
1日平均利用者数(人)	852	213	89	142	1,296
男 (%)	73	66	89	73	73
女 (%)	27	34	11	27	27
一 般 (%)	12	9	68	8	15
学 生 (%)	88	91	32	92	85

学生の類別は、岡崎本館における調査では

大 学 生 23%      高 校 生 40%      中 学 生 7%  
小 学 生 9%      各 種 学 校 21%

となっている。

## 5 利用図書の内容

岡崎本館の図書利用冊数は、約25万冊で、1日平均898冊である。

これを、図書の分類別にみると右のとおりである。

総 記	2.8(%)	自然科学	11.4(%)	語 学	6.8(%)
哲学・宗教	3.2	工 学	4.2	文 学	14.2
歴史・地理	9.5	産 業	1.8	児 童	19.6
社会科学	10.6	芸 術	3.4	新聞・雑誌	12.5

## 6 蔵書冊数

昭和34年度末における当館の蔵書冊数は26万冊をこえ、その各館別の内訳は右のとおりである。

本年度における受入図書数は6,803冊（購入=6,013、寄附=508。編入受入=275、数量更正による増=7）。

亡失、き損による払出図書数は411冊である。なを戦時中における貸出図書で回収不能になったもの7,081冊を本年度において除籍した。

本館	220,550(冊)	峰山地方分館	4,742(冊)
伏見分館	6,708	宮津地方分館	4,860
中京分館	5,566	綾部地方分館	4,308
上京分館	5,880	園部地方分館	3,464
		北桑地方分館	2,764
		木津地方分館	3,175
		合計	262,017

## 7 開架図書の利用状況

岡崎本館では、大閲覧室および学生室の一部に開架書架を設けて、新刊書・基本図書・雑誌をおき、児童室に完全開架制を行っている。開架図書の利用は非常に多く、本館における利用冊数の約8割を占めている。

大閲覧室 約10,000冊      学生室 約3,000冊      児童室 約3,000冊

## 8 読書相談

図書館の資料が十分利用されるように、専任の係をおき、利用者の質問・相談に応じ、実効をあげてきた。

特に官公庁、会社・工場、報道機関、文化団体、一般社会人による、

口頭	10,568件	郵便	165件	開室日数	279日
電話	2,545件	計	13,278件	1日平均	47.6件

社会生活と密接に結びついた利用が盛んになってきている。今後ますます京都府下関係各機関とも連絡を密にして、サービスの充実をはかりたい。

なお、このために必要な特許庁発行の諸公報類の整備、文献目録の編集なども行なっている。

## 9 児童室

少年少女のために、よい読書環境をつくることはきわめて大切である。当館は児童室の充実絶えず力を注いでいる。

本年度の利用児童は18,262名（男56%、女44%）で、図書館附近の小学校の児童が多い。

なお、利用児童が図書委員となって、児童室運営に協力している。

## 10 分館

### (1) 伏見分館（昭和25年2月開設）

伏見地区は、岡崎本館から約8kmはなれ、分館の必要性が大きい。

この分館は、はじめ他の建物の一部を借用して出発し、昭和29年快適な新館舎の落成をまって、移転再開した。敷地260坪、閲覧室70坪、座席120である。独立館舎をもった、初の本格的分館（コミュニティーランチ）として、将来洛南地区文化センターの役割を果す日が期待される。

本年度の入館者数は、1日平均213名、1日最高449名であった。

### (2) 中京分館（昭和24年6月開設）

この分館は、当初、丸善京都支店地下室を借用してきたが、丸善支店の都合により、一時閉館、昭和32年6月、烏丸丸太町下ル京都府烏丸庁舎の3階69坪を利用して再開した。

中京分館は、新刊の小説・随筆・新聞・雑誌を中心に、完全開架制をとり、気軽な市民の読書室となることを目標としている。なお中京分館の所在地は、京都商工会議所に近く、商工業者の利用を促進する目的をもって、商工業関係の図書・雑誌・パンフレットの類の収集につとめている。

本年度の入館者数は1日平均89名で、一般人が学生よりもはるかに多く、全体の68%を占めている。特に商工業者、サラリーマンの利用の増加してきたことは喜ばしい。

### (3) 上京分館 (昭和26年4月開設)

京都市北部地区も岡崎本館から遠く、ここに上京分館が設置され活動してきた。

昭和31年4月、それまで借用していた紫郊会館から、現在の北区等持院の故木島桜谷画伯の、元画室に移った。移転先は市電と郊外電車の交叉点に近く、周囲は住宅地帯である。新館舎は約60坪で、閲覧席80を有し、広い庭を前に控えて、明るく快適である。

本年度入館者数1日平均142名、1日最高389名であった。

### (4) 地方分館

昭和25年に、峰山・宮津・綾部の3館、次いで昭和27年に園部・北桑・木津の3館が開設され、現在6館である。これらの地方分館は、地域内の公民館・婦人会・読書会などの団体に対して、30冊ないし50冊を期間1か月で、団体貸出するものである。

なお文部省国庫補助を得て、「青年学級文庫」を購入し、地方6分館および本館貸出文庫に配して「青年学級」の読書活動を援助している。

館名	利用団体数	利用冊数(冊)
峰山地方分館	464	11,627
宮津地方分館	308	7,116
綾部地方分館	216	9,582
園部地方分館	342	15,722
北桑地方分館	128	7,689
木津地方分館	476	11,098
合計	1,934	62,834

## 11 貸出文庫

本館内にあり、主として京都市内および近郊の団体に対する貸出を行っている。

本年度における利用団体数158、利用冊数5,452冊であった。

## 12 経費

本年度諸経費は約20,373,000円で、内訳は右のとおりである。

なお本年度末における館員数は、主事30名、主事補15名、労務員1名、安定化職員5名、計51名である。

費目	金額	比較
人件費	約14,570,000円	71.5(%)
図書館資料費	3,095,000円	15.2(%)
図書費	2,317,000円	11.3(%)
定期刊行物	778,000円	3.9(%)
その他の経費	2,708,000円	13.3(%)
計	20,373,000円	100.0(%)

### 京都府立図書館所在地一覧

	所在地	電話
本館	京都市左京区岡崎成勝寺町9	吉田(7)0069(庶務・読書相談・宿直) 2450(整理・閲覧・庶務)
伏見分館	京都市伏見区瀬戸物町746	伏見(102) 2584
中京分館	京都市中京区烏丸通丸太町下ル(京都府烏丸庁舎3階)	上 ☎ 0916
上京分館	京都市北区等持院東町56	西陣(44) 9396
峰山地方分館	中郡峰山町字丹波(公民館内)	峰山 232(公民館)
宮津地方分館	宮津市鶴賀	宮津 350(労働セツルメント)
綾部地方分館	綾部市並松(綾部市立図書館内)	綾部 13(綾部図書館)
園部地方分館	船井郡園部町字小桜町	園部 250甲
北桑地方分館	北桑田郡京北町字下中	弓削 40
木津地方分館	相楽郡木津町字内垣外	山城木津 101